

らとちゃん劇場⑦



シリーズ石見銀山③⑩ 「分かりにくい」石見銀山遺跡 — その理由 —

石見銀山遺跡は「分かりにくい」世界遺産と言われており、特徴的な記念物に乏しく、観光客にアピールできるものが少ないことなどが指摘されてきました。

文化財担当者から見て、石見銀山遺跡が「分かりにくい」理由は、“遺跡だから”というところにその根源があるように感じます。

遺跡とはそもそも「分かりにくい」のです。何か重要な遺物や生活の痕跡があったとしても、土が1cmでもかぶってしまえばそれは見えなくなり、木が生えて森になってしまえば、元の様子をうかがい知ることは非常に難しくなります。

分からなくなってしまった遺跡の実態を明らかにするためには、考古学的な調査を実施する必要があります。考古学的調査には①現地を歩いてどこにどんな痕跡が残っているかを確認する分布調査、②範囲を限定して地面の掘り下げを行なう試掘調査、③まとまった範囲を対象としての本格的な発掘調査、の3段階があり、これらを適切に実施していくことで、土の中に埋もれてしまった情報を明らかにしていくことができます。(逆にいうと、考古学的調査をしない限り、そこがどんな遺跡であるかは分からないままなのです。)

石見銀山遺跡の発掘調査は昭和58(1983)年から継続して実施されていますが、非常に広い遺跡であるため、世界遺産に登録されている範囲のほとんどが未調査のままです。ですから、「分かりにくい」のは仕方ないかもしれません。そうは言っても、調査をしなければいつまで経ってもそのままですから、どこまでが明らかとなっているのか、次は何を明らかにしようかなどと考え、計画を立てて調査を進めています。今年度も3か所で発掘調査を計画しています。石見銀山遺跡の全貌が明らかとなるよう、これからもずっと調査を行うこととなります。



▲昆布山谷の発掘調査風景（平成26年11月19日撮影）